

評価委員会総合評価

研究課題名：シームレスな気象予測の災害・交通・産業への応用に関する研究

評価委員

委員長：岩崎 俊樹

委員：植田 宏昭、沖 理子、小畑 元、三枝 信子、佐藤 薫、坪木 和久、中村 尚、
保坂 直紀

評価年月日：：令和6年2月6日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった
- 優れた研究であった
- 研究を実施した意義はあった
- 失敗であった

2. 総合所見

温暖化予測のダウンスケールやリアルタイムのイベントアトリビューションなど、気候変動の研究成果を積極的に社会に提供している。不確実性を考慮した台風予報プロダクトの開発にも取り組んでいる。asucaに基づく新たな地域気候モデルの開発と性能評価、及び高速化は重要であり、実際の大雨事例に対する量的イベントアトリビューションを通じた温暖化の影響評価は異常気象分析に有用な貢献であった。また、マルチセンターアンサンブル手法による台風予報円の改善は動的予報円の現業化に貢献し、温暖化に伴う中緯度帯での移動速度増加傾向の発見など重要な科学的成果である。さらには、現行洪水予測モデルの精度検証と誤差要因の分析やアンサンブル予報の防災・産業利用の展開など気象関連業務の発展に繋がる成果もあった。学術的な成果と社会のニーズは、往々にして一致しないが、本研究の成果は、その間隙を埋める試みとして高く評価できる。

次期研究計画に向けて、以下の指摘事項を踏まえて、取り組んでいただきたい。

- ・ 社会ニーズの高い研究であり、今後も気象の専門家以外の方々との協働・協創により発展することが期待される。自治体や民間とも積極的に意見交換および共同研究を行い、気象情報の新たな活用方法を開拓するとともに、必要なプロダクトの検討をしていただくとよい。
- ・ 社会への情報提供に際しては、利用者との協力関係の構築がたいへん重要である。異分野との協力は簡単ではないが、対話の努力を続けていただきたい。
- ・ 有用な情報が社会、一般市民にまで届く仕組みについての検討も重要であることを念頭に次期の課題にも取り組んでいただきたい。
- ・ 多くの成果をあげているが、それらをどのように社会に発信していくのか、一

一般の国民がその情報を理解できるようにするためにどのようにすべきかを検討することが重要である。現状の気象情報は一般の国民にとって、専門家が考えているよりはるかに理解が困難である。このギャップを埋めることが、気象情報の利用の促進に不可欠である。

- ・ 本課題（A 課題）は内容的に T 課題と類似しているように思う。両課題が合流または協力するほうが、より大きな成果が生まれるのではないか。今後の発展に向けて、プロジェクトの構成についても検討していただきたい。